

コラム 「道の駅」に関する研究成果を活用した講演や技術指導

道路利用者の快適な休憩や地域振興を目的に整備されてきた道の駅は、一方で地震や暴風雪など災害時には、避難所として活用されています。

地域景観エッセイが北海道での暴風雪災害後に行った WEB アンケートにおいて、自分の住んでいる場所から遠く離れた場所で、運転中に災害が発生した際に、どこに避難しようと思ったか聞いたところ、避難しようと思いつく場所として、避難経験のない方は、道の駅(23%)やコンビニ(22%)を選んでいましたが、避難経験のある方の80%以上は、実際に道の駅に避難していました。しかし災害時に避難所や災害復旧拠点として活用された経験のない道の駅などでは、災害時の利用者行動・ニーズ、道の駅の役割について理解されていないなどの課題があります。

そこで、地域景観エッセイでは、「道の駅の防災機能に関する研究」の成果普及と地域貢献を目的に、各首長が参加する「北海道地区道の駅連絡会会議」をはじめ、自治体や道路管理者、道の駅管理者向けの勉強会、及び一般市民対象のイベントでの講演などを行いました。その結果、防災拠点化されていない道の駅においても、災害が発生したときの取り組みについて検討するなどの道の駅の防災への意識向上に寄与しています。

26年度は、講演や勉強会の講師15件、現地技術指導8件など延べ112自治体を対象に実施し、その他にも技術相談48件に対応しました。



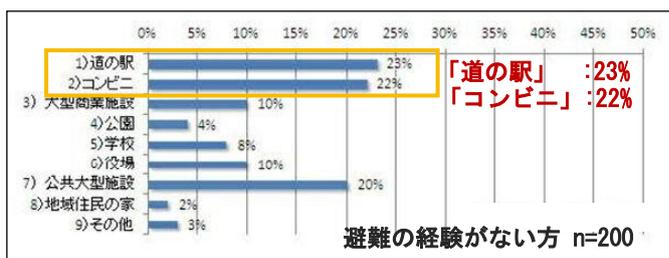
▲暴風雪災害時の道の駅
駐車場への避難状況
(提供：北海道開発局)



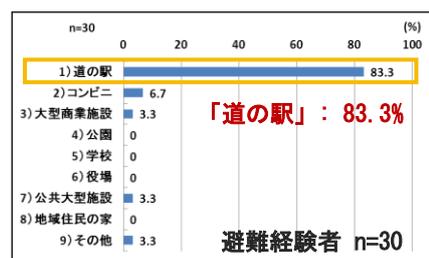
▲北海道地区道の駅
連絡会での基調講演



▲現地技術指導の状況



▲災害時に避難しようと思いつく場所



▲災害時に実際に避難した場所